

## 初詣と成人祭 石座神社、上賀茂神社、下鴨神社

弁護士 野々山 宏



毎年初詣は、元旦の未明に地元の産土神である石座神社に詣で、一休みして元旦ないし1月2日の午後に上賀茂神社に参拝することを常としています。また、下鴨神社では2人の子供が新成人になるにあたり成人祭を執り行ってもらいました。これらの神社は私にとって縁があるとともに、神社間でもさまざまな関係があります。

### 1 石座神社

京都市左京区岩倉地区の産土神で、「いわくらじんじゃ」と読みます。古代には、巨大な岩石を「磐座（いわくら）」と呼んで、天から降臨した神がその巨石に安座するとの信仰があり、その巨石を祭壇として使用したり、それ自体を崇拝する習慣がありました。京都の神社にはその神社の祭神の「磐座」と呼ばれる石が境内、境外等にありま。たとえば上賀茂神社は、その北西にある「神山」が磐座であり、禁足地として一般の人は登山できませんが、その頂上には巨石が並んでいるとのこと。

石座神社は、元々この磐座信仰が起源ですが、現在の神社には巨石はありません。南に少し歩いたところに、本殿はなくご神体の巨石だけが祀られている山住神社があります。これが本来の磐座で、以前はここに石座神社がありましたが、997年に寺院建築に伴い、現在地に移転しました。石座神社には宮司は常駐していませんが（下鴨神社の宮司が兼任していると聞いています）、元旦には、地元の皆さんがたき火をたき、甘酒が振る舞われて、身も心も温かく新年を迎えることができます。その後、磐座のある山住神社にも参拝に行きますが、ここは元旦でも人もおらず灯りが全くなく、暗い中に巨石が浮かび上がり、風の吹き抜ける音が響いて、神秘的で厳粛な気持ちになります。

### 2 上賀茂神社

正式名称は「賀茂別雷（かもわけいかづち）神社」といい、「上賀茂神社」「下鴨神社」は鴨川（賀茂川）の上流と下流にある賀茂氏ゆかりの神社としての通称です。祭神は「賀茂別雷大神（かもわけいかづちのおおかみ）」で、「別雷」とは若い雷という意味があり、雷信仰が起源とされています。桓武天皇が平安京に遷都して以来、皇城鎮護の神、鬼門の守り神、総地主の神とされ、庶民だけでなく皇室からの信仰が深く、山城国一之宮とされています。

正月には、神馬も厩におり、ここでも大きなたき火がたかれ、多くの人が参拝に来ています。広い境内をゆっくり回って参拝します。正月はできるだけ着物で過ごしていますが、上賀茂神社では私以外には着物姿をほとん

ど見かけないのが残念です。初夏のカキツバタの群生が美しい大田神社は、上賀茂神社の境外摂社で、ここにも参拝します。

### 3 下鴨神社

正式名称は「賀茂御祖（かもみおや）神社」といいます。祭神は「賀茂建角身命（かもたけつぬみのみこと）」と「玉依媛命（たまよりひめのみこと）」で、父と娘の関係になります。また、玉依媛命は上賀茂神社の祭神の賀茂別雷大神の母親であり、そのことから親の意味である「御祖」が下鴨神社の正式名称に付けられています。

昨年、上賀茂神社と下鴨神社は21年ごとの式年遷宮の年にあたっていました。社殿の多くが国宝ないし重要文化財であることから、これを壊すことができないので、伊勢神宮の遷宮のように新たな社を建てるのではなく、大修理をもって遷宮とされています。式年遷宮によって美しくなった本宮を参拝することができます。大修理には多くの資金が必要で、最近はどうも寄附が集まらないことから、次回の式年遷宮の資金のために、境内に高級マンションを建築して販売する計画が公表され問題となっています。世界遺産の京都の景観の維持と資金確保の両立をどうしていくかは、京都市民として考えていかななくてはならない課題です。

下鴨神社では成人の日にあたり、成人祭を執り行っています。昔の元服の儀式を今に伝える行事で、新成人となった男女が烏帽子姿の平安装束を着て、本殿で成人としての誓いをし、宮司の言葉を聞き御神酒をいただきます。私の2人の子供はいずれもこの成人祭に参加しました。全国から30名ほどの新成人が集まって挙行されます。自治体主催の成人式とは異なり、こぢんまりとして静かに新成人を祝い、成人の誓いもそれぞれが神前で言い、また、本格的な平安装束なので、本人たちにとっても、親にとっても強く記憶に残ります。間もなく新成人を迎える方には、おすすめです。

4 今年も5月15日には葵祭（正式には賀茂祭）が催されました。上賀茂神社、下鴨神社が共同で催す祭礼で、6世紀から1400年間続いている行事であり、京都の歴史の重みを感じます。石座神社にも、長い歴史を持ち「奇祭」と言われている、火祭りがあります。毎年10月23日に近い土曜日の深夜3時に大松明に点火され、早朝まで続く祭りです。私自身は京都の長い歴史に比べて住んでわずかですが、これからも少しでもその歴史に縁を持って暮らしていきたいと思っています。